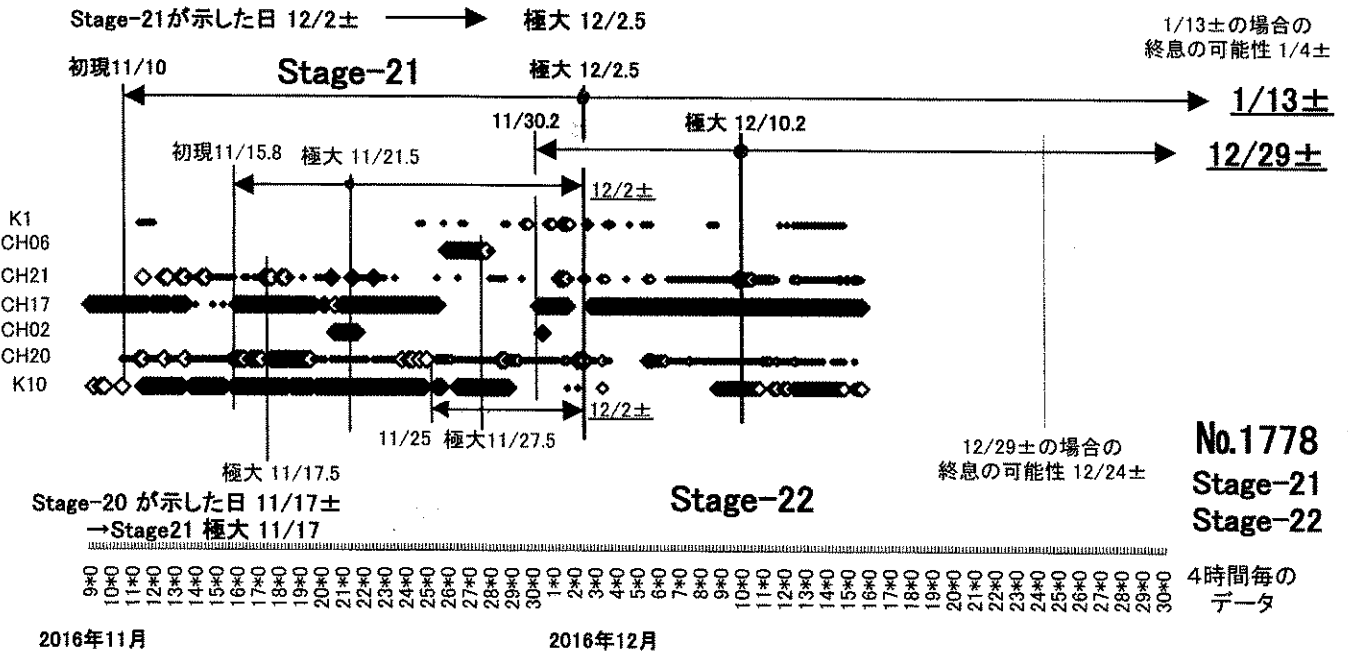


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告

12/15 現在 前兆継続のため ⇒ 12/17±の可能性否定



No.1778長期継続特殊前兆の続報・現況報告です。E-mailとFaxで日々配信しております「地震前兆検知・観測情報」では、既に報告していましたが、過去例通り、第22ステージにも二つ目の極大=12/10.2が観測されました。HPでは多忙で更新できませんでした。お許し下さい。以下は観測情報の一部転載です。

CH21に微弱な前兆が継続出現するようになった12/6.4を初現とし、12/10.2を極大とする認識では、本日12/15.5±に前兆終息が計算できました。しかし表題及び上前兆出現状況図のとおり、CH17及びCH21、K10の特異前兆が終息しておらず、継続出現中です。このことから、12/6.4を初現とする認識は誤りであることが明らかです。

※No.1778前兆からの「領域推定」「規模推定」「発生時刻推定」の内容は修正ありません。前号以前の続報をご参照ください。発生時期のみ解析中です。前兆が終息しないと発生日を確定計算できません。

そこで、前兆をあらためて見直し、再検討しました。その結果が上図に書き込んだ関係です。

12/2.5に極大が認識されるCH20の前兆初現=11/10を12/2.5極大の初現とする可能性(1/13±を示す)と、CH17の糸状特異出現開始=11/30.2を初現とし、12/10.2を極大とする可能性(12/29±を示す)の2種の可能性が考えられました。

12/29±の可能性の場合には、図中にも記したとおり、12/24±に前兆終息が観測される筈です。また1/13±の可能性の場合には、1/4±に前兆終息が観測される筈と計算できます。

但しどちらも今後さらに極大が出現しない場合です。今後を注意深く観測します。

前兆終息を確認次第続報予定

※本内容は地震前兆検知・観測情報の一部を転載したものです。ご了承下さい。

※第22ステージが示す時期の中で最も早い場合を考慮して、前兆関係を考察していました。初現認識が誤っていたことを深くお詫び申し上げます。